

【草花の部屋】

ガーベラ（キク科ガーベラ属 Gerbera）

和名：花車（ハナグルマ）、大千本槍（オオセンボンヤリ） **別名**：

英名：Gerbera

キク目 宿根多年草

原産地：南アフリカ

花言葉：希望、常に前進

花色：赤、白、桃、黄、緑、他



← 写真-1 ガーベラ

撮影日：2019年05月08日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

自宅の庭で、毎年咲いてくれます。

ガーベラ (Gerbera) は、キク科ガーベラ属の総称で、狭義にはアフリカセンボンヤリ (*Gerbera jamesonii*) をガーベラとすることがあるそうです。

葉は地際に集まって茂り、花茎だけが

長く伸びて咲くすっきりした草姿が特徴です。赤色で花弁が細く、枚数も少ない原種のヤメソニー (*Gerbera jamesonii*) と他のいくつかの原種との交配で、多数の園芸品種が育成され、毎年のように新品种が生まれているそうです。

多くの花色と、一重、八重、スパイダー咲き (細長く針のような咲き方をしているもの) はやセミダブルなど花形のバリエーションもあり、また、小鉢や寄せ植えに向く丈の低い小型のものから、切り花用の高性種、花壇向きの品種などがあり、広い用途があります。

切り花用には主に栄養系の品種が使われますが、鉢物用にはタネから育てる実生系の品種の利用がほとんどで、まいてから4~5か月で開花します。

ガーベラの名前は、ドイツの植物学者が発見した人でもあるゲルベル (Gerber) の名前に由来しています。日本には明治時代の終わり頃から大正時代の初めの間に入ってきたそうで、当時はハナグルマやオオセンボンヤリなどの呼び方で親しまれていたそうです。

今でも日本でみかけるガーベラのほとんどは、オランダなどから輸入されたものだそうです。また4月18日は語呂合わせで「よい花」としてガーベラの日とされています。

<ちょっと一言>

栄養系と種子系

- ・種子系(繁殖)とは、普通に花から採れた種を蒔いて育てた株のこと。
- ・栄養系(繁殖)とは、植物本体の葉や茎を使って差し芽などをして育てた株のこと。